

## 活動報告（令和3年）

## 1 戦史関連研究会等

## (1) 令和2年度戦争史研究国際フォーラム

防衛研究所の主要行事である戦争史研究国際フォーラムは、令和2年度のテーマを「近代東アジアの安全保障環境」とした。これは「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱について」にて、我が国を取り巻く安全保障環境が、パワーバランスの変化の加速化・複雑化により、「自らに有利な国際秩序・地域秩序の形成や影響力の拡大を目指した」国家間の競争が顕在化したと指摘されたことを反映している。本フォーラムでは、20世紀前半（主に両世界大戦期）の東アジアの安全保障環境に注目し、日本、中国、ソ連（ロシア）、欧米諸国の政治・外交・軍事に焦点を当て、既存の国際秩序・地域秩序をめぐる不確実性に対し、各国の諸政策が果たす役割について考察した。本フォーラムでの討論を通じ、現代東アジアの安全保障環境が複雑化する中、日本の防衛・安全保障政策を考察するための歴史的視座の提供を目指した。

なお、本フォーラムは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一部オンライン形式にて開催された。

題 目	近代東アジアの安全保障環境		
実 施 日	令和3年3月3日（水）	場 所	防衛研究所国際会議場
基調講演	「近代東アジア史再構成の試み」 中西寛（京都大学教授）		
研究発表	第1セッション 近代東アジアをめぐる地域秩序 「近代日本のアジア主義と東アジア地域秩序」 松浦正孝（立教大学教授） 「近代中国の対外関係と東アジア」 劉傑（早稲田大学教授） 討 議 庄司潤一郎（防衛研究所研究幹事）		

研究発表	第2セッション 近代東アジアをめぐる国際秩序 「別々の途に向かって：戦間期アジア秩序の再編における大英帝国と日本」 ブライアン・ファレル（シンガポール国立大学教授）
	「ソ連の極東戦略と国際秩序」 花田智之（防衛研究所戦史研究センター主任研究官） 討 議 等松春夫（防衛大学校教授）

(2) 令和3年度戦争史研究国際フォーラム

湾岸戦争から30年という節目の年に当たる令和3年度の戦争史研究国際フォーラムは、「歴史としての湾岸戦争」をテーマとした。戦争の発端となったイラクによるクウェート侵攻は、冷戦終結後の世界が最初に直面した試練であり、それに対する国際社会の対応のあり方は政治外交や軍事をはじめ、広範な領域にわたってその後の世界史の展開に影響を及ぼすこととなった。そこで本フォーラムでは、湾岸戦争を軍事と政治の両面から幅広く検討し、この戦争の歴史的位置づけを大局的に考察することを目指した。

なお、本フォーラムは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン形式にて開催された。

題 目	歴史としての湾岸戦争		
実 施 日	令和3年9月14日(火)	場 所	防衛研究所国際会議場
基調講演	『砂漠の嵐』航空作戦の立案と実行——効果ベースのアプローチ デイヴィッド・A・デプテュラ（米空軍退役中將）		
研究発表	第1部 軍事史のなかの湾岸戦争 「湾岸戦争がアメリカの戦略とその概念に対して与えた長期的影響」 カーター・マルケイジアン（米海軍分析研究所研究員） 「RMAと西側の台頭——未来への含意」 ウィリアムソン・マーレー（オハイオ州立大学名誉教授） 「湾岸戦争と軍事革新」 塚本勝也（防衛研究所社会・経済研究室長）		



## 戦史研究年報 第25号

○第3回日独共同研究ワークショップ（オンライン）

月 日	発表テーマ
8月10日（火）	<p>攻勢から守勢へ——太平洋戦争（1942~44年）における日本の戦略 進藤裕之国際紛争史研究室長</p> <p>第二次世界大戦期におけるソ連軍指導部の対日・対独認識 花田智之戦史研究室主任研究官</p> <p>ヨーロッパにおける多国籍戦力 イーナ・クラフト学術研究員</p> <p>「接敵領域」から「戦略的ハブ」へ — 1990年代前期のドイツ連邦 軍最高司令部における戦争コンセプトの転換 マルティン・レーゼ研究員（連邦軍少佐）</p>

### （5）研究会

実施日	題 目	講 演 者
1月27日 （水）	1956、1967、1973年中東戦争——長期紛争の予想外の拡大	オハイオ州立大学教授 ピーター・L・ハーン
1月29日 （金）	レーガンと世界	
2月18日 （木）	意図せずして成立した政権と未完の中国内戦	スタンフォード大学・フーヴァー研究所近現代中国コレクション主任兼リサーチフェロー 林 孝庭
2月19日 （金）	近代史の貴重な文物：フーヴァーコレクション	
10月22日 （金）	蒋介石、中国革命と日中戦争——著書『蒋介石の戦時外交と戦後構想：1941-1971』について	慶應義塾大学教授 段 瑞聡
11月26日 （金）	日本陸軍の船舶輸送部隊「暁部隊」と司令官たち	ノンフィクション作家 堀川 恵子

### 2 戦後史関連の戦史史料編さん

戦後史関連の戦史史料編さんは、オーラル・ヒストリー（口述記録の作成）の編さんに取り組んでおり、本年度末に「日本の安全保障と防衛力（その10）：元防衛事務次官・伊

藤康成」の刊行を予定している。

### 3 戦史史料の閲覧

防衛研究所は、戦史史料（旧陸海軍関係の公文書類等）を、平日 9 時から 16 時 30 分まで、戦史研究センター史料閲覧室において一般に公開している。しかし新型コロナウイルスの影響で令和 3 年 1 月 20 日から 3 月 22 日、4 月 27 日から 6 月 24 日、7 月 16 日から 10 月 4 日の間閉館となった。閲覧再開後も、感染症対策のため閲覧には予約が必要である。

調査研究のために閲覧を希望する者は、予約をした後に、所定の手続きをとって誰でも閲覧することができる。予約・閲覧方法等については、防衛研究所史料閲覧室のホームページ ([http://www.nids.mod.go.jp/military\\_archives/](http://www.nids.mod.go.jp/military_archives/)) を参照。また、一部の戦史史料については本ホームページから閲覧が可能となっている。

令和 3 年の閲覧者総数は 614 名であり、月別閲覧者数は下表のとおりである。

月	1	2	3	4
閲覧者数	50	0	30	119
月	5	6	7	8
閲覧者数	0	21	70	0
月	9	10	11	12
閲覧者数	0	96	114	114

### 4 レファレンス

防衛研究所は、主に戦史研究センター史料閲覧室を窓口として、戦史史料の検索、特定の戦史史料の内容に関する情報提供、戦史史料に関する参考文献及び専門的調査機関等に関する情報提供を行っている。

令和 3 年のレファレンス統計は以下のとおりである。

#### (1) 要求件数

総件数は 888 件であった。月別件数は下表のとおりである。

月	1	2	3	4
要求件数	60	47	67	82
月	5	6	7	8
要求件数	43	72	73	82

## 戦史研究年報 第25号

月	9	10	11	12
要求件数	67	79	109	107

### (2) 海外からの要求件数

総件数は10件（閲覧者数含む）であった。

国・地域	香港	オーストラリア	アメリカ	アルゼンチン
要求件数	1	1	3	1
国・地域	イギリス	ドイツ	ロシア	ベルギー
要求件数	1	1	1	1

### (3) 質問内容

質問内容	戦争指導	作戦戦闘	部隊史	個人歴	制度	兵器
要求件数	19	51	149	232	38	33
質問内容	軍事施設	服装記章	教範用語	教育訓練	情報	兵站補給
要求件数	52	19	31	18	3	2
質問内容	研究開発	戦史史料	自衛隊史	戦史叢書	外国戦史	その他
要求件数	2	186	1	3	1	48

### (4) 陸海軍別

国	陸軍	海軍	共通	その他
要求件数	509	244	83	52